

[音 楽]

歌唱教材を鑑賞の軸とした音楽表現の有効性

—低学年における音楽づくりの活動を通して—

和田 意織*

1. はじめに

2017年3月、小・中学校の次期学習指導要領が告示された。現行と改訂を比較すると、育みたい「資質・能力」が大きく取り上げられている。そこでは「学びに向かう力・人間性等」「知識・能力」「思考力・判断力・表現力等」の3つの柱で構造的に示されている。特に、注目されるのは「知識」のあり方である。個別的・事実的な知識をただ記憶すればよいのではなく「生きて働く知識」として児童が知識を活用できることに重点が置かれ、学ぶことで『何ができるようになるのか』という視点で取り上げられている。また「第6節 音楽 第1目標」では、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を、曲想や音楽の構造とのかかわりについて理解すること等を通して育成を目指す、記されている。

また、先行実践を調べる中で森本(2014)は生徒が創作表現活動を苦手としている理由として、『音符を操作することが難しそう』『何を書けばいいのか イメージがわからない』『音楽をつくることに自信がない』『音を組み合わせることが難しい』等と記している。「音楽づくり」の方法を明確に示し、見通しをもって活動に取り組めるよう教師が導く必要があると記している。児童に、音楽科の4つの活動内容である「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」を好きなものに順位づけさせたところ、圧倒的に「音楽づくり」が最下位となったとしている。「音楽づくり」の経験がないことや、興味が低いことなどから、「難しそう」「できそうにない」のようなマイナスのイメージへとつながってしまっているのではないかと考えられる。一方、1位の数が一番多いのは「鑑賞」であったことをあきらかにしている。鑑賞と音楽づくりを一体化した授業をした結果、授業前に比べて、「音楽づくり」への興味や関心が深まった児童が増えている。一体化をめざす授業実践の効果が伺えたことを明らかにしている。このことから、プラスのイメージがある「鑑賞」の経験を踏まえて、「音楽づくり」の活動を展開することは、児童の意欲を向上させることにつながるのではないかと考えた。

では、小学校低学年児童の意欲向上に有効な手立てはどのようなものなのかと考えたとき、身体表現を関連付ける活動が有効であると考えた。私は、今までの活動の中で、歌詞と結びつけて動物の動きを表現させたり、曲の速さに合わせて体を動かす活動をしたりするとき、児童は生き生きとした表情をしていると感じてきた。音符の長さや拍子の学習をするときも同様であった。身体的な活動と結びつけると児童は、2拍子の感じや3拍子の感じを意識しやすいと感じられた。そこで、今までの既習の学習と「音楽づくり」を結び付けるより良い方法はないか考えた。『「音楽づくり」において、既習の教材を再度鑑賞することで、より学んだ知識をいかした活動ができ意欲向上に、つながる』と仮説を立てた。その中で児童がどう変容していくのか、「音楽づくり」と「鑑賞」の一体化が授業改善のために重要になるのではないかという示唆を得ることを目的として研究をすすめた。

2. 研究の目的

本研究は、小学校2学年の音楽づくりにおいて、既習の歌唱教材を鑑賞する活動を通して、どのように有効に働くかを検証する。児童が鑑賞したときの発話や鑑賞した後の音楽づくりの記録から明らかにしていく。

3. 研究の内容と方法

- (1) 実践期間：平成29年6月～7月
- (2) 対象児童：第2学年27名

* 新潟市立鳥屋野小学校

(3) 題材名：「ひょうしをかんじてリズムをうとう」

(4) 方法

本題材では、2拍子や3拍子の教材曲を歌ったり、体の動きを伴った表現活動をしたりした後に、リズムカードをつかって反復する楽しさを味わう音楽づくりの活動を設定した。カードを並べるだけでオリジナルのリズム譜をつくることができる楽しい活動である。その反面、カードを並べることや友達との交流する楽しさに留まり、反復する楽しさを味わうところまで辿り着かずに活動が終わってしまうという問題点がある。そこで、鑑賞活動を充実させた後音楽づくりをすることで児童たちの気付きに変容があるか、音楽づくりにどのような効果があるか検証した。

鑑賞曲の設定

- 「1」同じリズムでフレーズを感じやすい既習教材の鑑賞
- 「2」同じフレーズと似たフレーズの組み合わせから成る既習教材の鑑賞
- 「3」繰り返しはあるが、児童にとって聴きなじみのない曲の鑑賞

4. 実践の結果と分析・考察

(1) 題材名「ひょうしをかんじてリズムをうとう」の概要

本題材は、2年生の題材「はくのまとまりをかんじとろう」で身に付けた拍子感覚を基に、リズム伴奏にのって歌ったり、演奏したりする。リズム譜に親しみ、簡単なリズムを演奏したり、反復を生かしたリズムをつくったりする。これで身に付けてきた拍子やリズムに対する感覚などの身に付けてきた楽典事項を生かして表現する学習活動である。

(2) 本題材における教材と主な学習の流れ（全9時間）

時	主な学習	鑑賞の手立て
1～5	<ul style="list-style-type: none"> ・「この空とぼう」2拍子を感じながらリズム打ち ・「いるかはざんぶらこ」3拍子を感じながらリズム打ち ・「山のポルカ」2拍子を感じながら2種類のリズムをうちましよう。 ・「おまつりの音楽」くり返しをつかって音楽づくりをしましよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽づくりでできたリズム譜の発表と友達の作った曲を鑑賞させる
6	<p>【実践1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この空とぼう」リズム譜に注目した鑑賞と音楽づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム譜に着目して曲を鑑賞する。8小節の異なるフレーズの反復に気付きやすいよう、二段に分けて掲示する。 ・鑑賞で気付いたことを音楽づくりに活かさないか話し合う。
7	<p>【実践2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山のポルカ」リズム譜に注目した鑑賞と音楽づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム譜に着目して曲を鑑賞する。4小節ずつ同じリズム型が反復していることに気付きやすいよう4段に分けて掲示する。 ・鑑賞で気付いたことを使って音楽づくりに取り組ませる。
8 9	<p>【実践3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘンデル作曲「メヌエット」の鑑賞。反復や場面がかわった所など曲の気付きと感想する。 ・学習を振り返り、音楽づくりと発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反復しているところに着目して鑑賞させる。必要に応じてリズムを板書や手拍子などさせた。 ・学習を音楽づくりに生かすよう声がけをした。

(3) 実際の児童の姿と分析・考察

① 【実践1】教材曲「この空とぼう」海野 洋司作詞／鹿谷 美緒子作曲

本題材は、1拍目のタンブリンと、2拍目のカスタネットの組み合わせからなるリズム伴奏をすることができる2拍子の曲である。1時間目で歌とリズム伴奏の学習や、4分音符や4分休符の長さについての学習をしてきた。曲の速さに合わせて歩いたり、「空を飛ぶ鳥だったらどんな動きかな」と身体表現をしたりしながら2拍子の感覚を味わってきた。しかし、繰り返しについては触れず、児童からも気付きはなかった。鑑賞では、8小節のフレーズが2回反復していることに気付きやすいよう以下のようにリズム譜を掲示した。

ずん	ずん	のぼりま	しょう	そら
るん	るん	どこまで	も	かぜ

以下は、鑑賞後の発話記録と、授業後のアンケートの集計である。

【発話記録】

T1: この曲はみんなも知っている曲だよ。
 C1: 「この空とほう」だよ。2拍子の曲です。
 T2: そうだね。題名を言っていないのにすぐわかったね。
 では、音楽づくりで使っているカードをつかってもう一回聴いてみるよ。気付いたことはないかな。
 C2: あ、同じだ4分音符がまたでてきた。
 C3: ウン（4分休符）も何回もあるよ。
 C4: 上と下が同じだ。ウン（4分音符）タン（4分休符）ウンタンが上と下で同じです。
 C5: 繰り返している。
 T3: そうですね。繰り返し（反復）を使っていますね。すごい発見をしたね。

【アンケートの集計】

(1) この曲の工夫しているところは何でしたか。
 （複数回答）

- ①音・・・0名 ②繰り返し・・・25名
 ③リズム・・・12名 ④音の速さ・・・1名

(2) 鑑賞の学習は楽しかったですか。

- ①楽しかった・・・21名
 ②普通・・・4名
 ③楽しくない・・・2名

(3) 自由記述

- ・4分音符が横にそろっていて面白かった。
- ・タンがたくさんあった。
- ・リズムがよく理解できた。
- ・その他（4分音符と4分音符の記号を描かいている児童が23名）

② 【実践2】教材曲「山のポルカ」芙蓉 明子 日本語詞／チェコ民謡／飯沼 信義編曲

本教材の原曲はチェコ民謡で、軽快なポルカのリズムが楽しい曲である。2時間目の授業で8分音符と8分休符の音符についての学習と、鍵盤ハーモニカで演奏練習を行ってきた。また、や等のリズム伴奏で4分音符と8分音符の組み合わせについて学習し、踊りたくなるような曲の感じを味わった。しかし、ハーモニカの練習では、難しい運指やテンポの速さに意識が集中し、リズムの繰り返しまで気付いている児童は少ないようだった。そこで、4小節のフレーズが4回繰り返されていることに気づきやすいよう【実践1】と同様に以下のように掲示した。

やまの	すきな	おじさん	は
いつも	しゃれた	あかいしゃ	つ

以下は鑑賞後の音楽づくりにおいてワークシートの項目別集計である。

【感想】

- ・音符がリズムになっていて楽しかった。
- ・リズムづくりを楽しく作れた。
- ・繰り返しを使えてうれしかった。
- ・難しかった。
- ・リズムづくりは楽しかったし、聞いてもらえて嬉しかった。
- ・リズムづくりはとても楽しかった。
- ・また作りたい。
- ・リズムよく作れた。
- ・考え（繰り返し）を使って作った。
- ・リズムが曲になっていた。
- ・楽しかった。
- ・少し難しかったけど、今度は上段と下段とを同じにして作りたい。

【感想から感じられる児童の着眼点】

- 共通事項から
 - ・リズムについて…6名
 - ・繰り返しについて…3名
- 心情面から
 - ・難しかった…2名
 - ・楽しかった…6名

【アンケートの集計】

- ・鑑賞の学習は楽しかったですか。
 - ①楽しかった…25名
 - ②普通…1名
 - ③楽しくなかった…1名

【音楽づくりで工夫したこと】

- ①繰り返しを使った…19名
(その内パターンが見られた…7名)
- ②リズム・音符を工夫した…2名
- ③歌になるようにした…1名
- ④楽しく演奏できるように工夫した…1名
- ⑤8分音符をたくさん使った…1名
- ⑥無回答…3名

③ 【実践1】と【実践2】の分析と考察

ア. 鑑賞アンケートの集計から

【実践1】のアンケートで、「楽しかった」と感じた児童は77%であったが、【実践2】後のアンケートでは、92%になった。これは、以下の理由が考えられる。

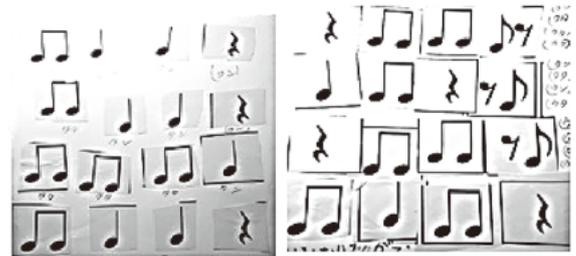
- i. 聞いたことがある曲だったから。
- ii. リズム譜づくりに取り組めたから。
- iii. 繰り返しのリズムについて、学習したことで、リズム譜づくりのコツが掴めたから。

聴きなじみのある曲を鑑賞したことや、リズムの並び方を発見すること楽しさ、リズム譜づくりに取り組めたことの楽しさから数値が少し上がったのではないかと考えられる。

また、鑑賞後の「音楽づくり」において、共通事項の気付きを生かすことができていた児童が84%であった。二つの実践を通して共通事項を理解することができ、気付いたことを「音楽づくり」において工夫することができたのである。

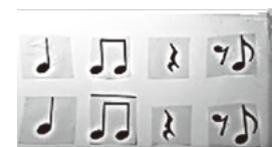
イ. 反復についての理解について

実際のリズム譜づくりにおいては、5時間目にはリズムカードを並べることで満足し、楽しんでいた児童も【児童A】のように上2段に反復を入れていたり、【児童B】のように1段目と3段目に反復を入れていたりして、リズム譜をつくるようになった。また、同じく5時間目の授業で、何もカードを並べることができなかった児童も【児童C】のように2段同じパターンのリズムを並べることができた。また、リズム譜づくりで工夫した点について「繰り返し(反復)」を意識した児童は70%であった。その中の36%の児童は【児童A】や【児童B】のように4小節のパターンをつかって反復することができた。



【児童Aのリズム譜】

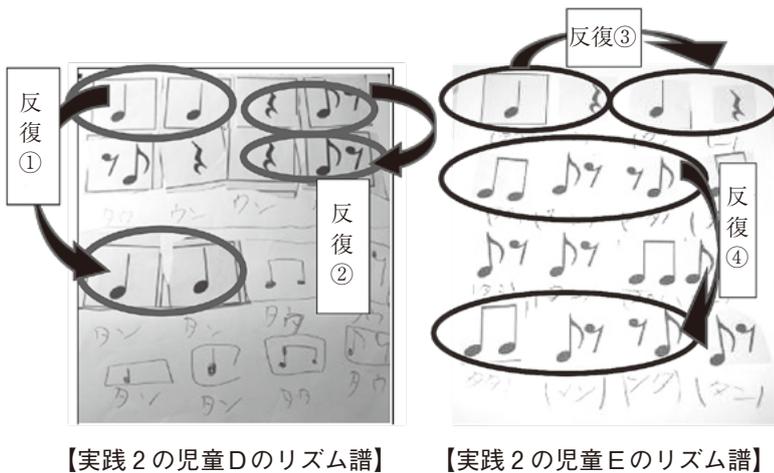
【児童Bのリズム譜】



【児童Cのリズム譜】

ウ. 音楽づくりが意欲面に働く有効性について

【児童D】は【実践1】のアンケートでは、「楽しくなかった」と記していた。しかし、【実践2】では意欲的にリズム譜づくりに取り組み「リズムづくりは楽しかったし、聞いてもらえてうれしかった。」と感想に記している。また、「曲の工夫」に関する欄でも【実践1】では、「リズム」「速さ」に回答していて「反復」には注目していなかったが、



【実践2】においては、反復を用いてリズム譜づくりに取り組むことができた。さらに、普段の学習では意欲があまり感じられにくく【実践1】のアンケートで「楽しくなかった」と回答していた【児童E】にも変容が見られた。【実践2】では、リズム譜づくりに意欲的に取り組み授業時間内で作業を終えることができた。また、自ら音符の読み方を書いて「練習していいですか」と何度も練習する様子が見られた。「鑑賞」することで、リズム譜ですべきことが分かり、「音楽づくり」への意欲につながったのである。「鑑賞」と「音楽づくり」の一体化の有効性が感じられる結果となった。

④ 【実践3】教材曲「メヌエット」ヘンデル作曲

児童が初めて聴く曲であり、【実践1】【実践2】と違い、3拍子の曲である。4小節のフレーズが繰り返され、まとまりを聴き取りやすい曲でもある。同じリズムが繰り返される中で、弦楽器の合奏からソロへ移り、音高が高くなったり低くなったりして変化していく。

本教材を選んだ理由は、①既習教材の鑑賞との違い。②聴き取る力だけでどれくらい反復に気付くことができるか。について検証しなかったためである。そのため【実践3】では、リズムカードを掲示せず、聴きとることに集中させたかった。しかし、児童から「どんなリズムか書いてほしい。」と要望があったため、最初の4小節のフレーズのみ板書した。以下は、鑑賞後の気付きと、音楽づくりにおいてワークシートの項目別集計である。

【鑑賞曲の感想(抜粋)】

- ・音が変わりながら繰り返している。
- ・歌みたい音が変わるけど音符が同じのがやってくる。ちょっと変えたリズムがあってまた何回も繰り返されていた。
- ・繰り返しがあった音が変わる。♪♪から早い沢山の音符(装飾音符)までを1回としたまとまりが8回あった。
- ・繰り返しが3回あった。
- ・色々な楽器があって繰り返しがあってリズムがあった。音が静かになったり小さくなったりしている。音が高くなっているのに音符が同じ。4分音符と8分音符が沢山出てきた。
- ・きれいな音が繰り返されている。低くなったり高くなったりしている。きれいになっている。
- ・最初は繰り返しているけど、最後は違う音。
- ・繰り返しが8回あった。
- ・沢山の音があってすごかった。
- ・音が変わるのに同じリズムがたくさんあって繰り返して面白かったです。
- ・繰り返しがあった。音がかわった。色々な楽器のおとがすごかった。

【感想から感じられる児童の着眼点】

- ・繰り返しについて…26名
- 【繰り返しのなかの気付き】
- ・音色の変化…21名
- ・音符に注目したまとまりの回数…4名
- ・音の強弱…3名
- ・音の高低…2名
- ・音の美しさ…4名
- ・リズム譜を描き、音符の多さに気付いた…5名

【アンケートの集計】

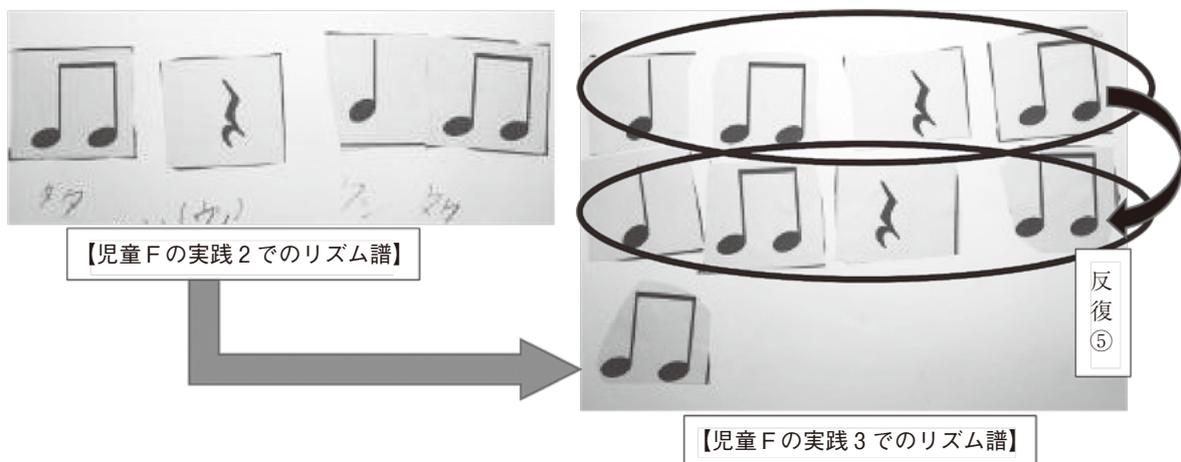
- ・鑑賞の学習は楽しかったですか。
- ①楽しかった…21名 ②普通…4名
- ③楽しくなかった…2名

鑑賞曲の感想から、96%の児童が繰り返しについて感想を記述することができた。また、その中でも音色の変化や音の強弱など様々なことに気付くことができた。以前の鑑賞活動では、見られなかった姿である。感想の記述の多さからは、【実践1】【実践2】から学んだ聞き取る力が発揮されたことが感じられる。次に、【実践3】における音楽づくりの項目別集計を記す。

【音楽づくりで工夫したこと】

- ①繰り返しを使った…20名
(その内パターンが見られた…10名)
- ②リズム・音符を工夫した…3名
- ③楽しく演奏できるように工夫した…1名
- ④前より上手に作った…2名
- ⑤無回答…1名

【実践2】と比較し、繰り返しを使った児童は一人増えただけであった。しかし、その中で【児童A】や【児童B】のようにパターンが見られる繰り返しを使った児童は10名になり、3名増えた。これは、様々な変化のある繰り返しに気付いたことで、音楽づくりにも生かすことができたと言える。また無回答が減り、「前よりも上手になった」「楽しく演奏できるようにした」など肯定的な記述が増えたことから、有効であったと言える。さらに、【児童F】の記述にも以前との変容が見られた。【実践2】では、繰り返しの記述がなく、工夫についても無回答であった。しかし【実践3】では、肯定的な記述と繰り返しについて工夫しながら音楽づくりをすることができた。



5. 成果と課題

既習の歌唱教材を再度鑑賞することは、フレーズのまとまりやリズムの反復に気付きやすい。また、聴き馴染みのある曲を別の視点でとらえることで、音楽に対してさまざまな見方があることを知り、児童自ら発見できる喜びを感じることができる。音楽づくりと歌唱教材を結び付けるためにリズムカードを掲示することも有効だったと考える。歌唱教材を「繰り返し」という視点をもって聴かせることで、意識的に鑑賞することができた。鑑賞の視点を与えることが他の鑑賞曲を聴いた時にも、「繰り返し」だけでなく、「音色」「音高」「音符」などさまざまなことに気づくことにつながった。今回の実践は一つの題材でしか検証していないことから、今後は他の題材でも有効性があるかという言い切ることにはできない。今後の課題として取り組んでいきたい。

6. おわりに

本研究での実践を通して、児童の様子から強く感じたことが2つある。1つ目は、既習の歌唱教材を鑑賞することで児童が音楽的な知識に気づきやすいということである。2つ目は、複数の既習曲を鑑賞することで、気付きが深い理解となり、「音楽づくり」に活かしたいという意欲向上につながるということである。これからも、児童に音楽を表現し、作ることへの楽しさを味わわせられるよう、鑑賞との一体化を意識しながら音楽に対する感性を育てていきたい。

【引用・参考文献】

- 1) 森本奈葉 河添達也「表現(創作)」と鑑賞の一体化をめざした教材開発の実践的研究」教育臨床総合研究13 2014 研究
- 2) 吉村智宏「子供の自発的な音楽表現の練り上げを目指した研究～子供による他者評価を取り入れて～」教育実践研究 第27集 (2017)
- 3) 教育芸術社出版「小学生の音楽2指導書研究編」
- 4) VIEW21教育委員会版2017vol.1
- 5) 神原雅之編著「世界の歌を遊ぶリトミックゲーム～ボディーパーカッションから音楽表現まで～」明治図書, 2009年